

## 平成26年度第2回府中市立図書館サービス検討協議会議事録

日 時 平成26年10月15日(水) 午前10時から11時半  
会 場 府中市立中央図書館 5階会議室  
出席者 栗田博之委員、茅原幸子委員、野見山敏雄委員、小島茂委員、  
高橋博子委員、大石千鶴委員、渡辺信子委員  
欠席者 北谷豪委員  
事務局 坪井図書館長、佐藤地区図書館担当主査、伊藤、平野、菅沼(記録)

事務局より傍聴人の申し出はなかったこと、及び資料確認を行う。

### 1 議題

栗田委員 議題はコンビニエンスストアにおける貸出返却サービスについてである。これは、前回の会議でも話題となったが、利用者の利便性を高めるための一つの方策と考えられるものである。他の図書館で行っている取組について事務局に調べていただいたので、それらの事例について説明していただきたい。

事務局 配付した資料にもとづいて、コンビニエンスストア等における図書館資料等貸出返却サービスについて説明をする。委員の皆様から色々なご意見をいただきたい。以前より、府中市議会の1会派からコンビニエンスストアを図書館資料の貸出返却サービスに利用できないかといった要望がだされていた。コンビニエンスストアは24時間営業で、市民の方々の生活の形態の変化などに伴い、多くの方が利用する。社会人は夜遅くまで勤務し、また土日、祝日も仕事をされる方もいる。主婦の方も様々な社会参加をされており、忙しく過ごされている方が多い。現在中央図書館は午前9時～午後10時まで、学習センター図書館は平日午前9時～午後7時まで、その他の地区館は午後5時まで開館している。開館時間内では利用しにくい、しかし利便性をあげてほしいということで、コンビニエンスストアでのサービスの検討を意見としてだされていた。一方、「市長への手紙」において、図書館が遠く離れた地域への図書館サービスの要望があった。現在半径約1km圏内に文化センターがあり、その中に図書館がある。地域的には市内のどの地域からも歩いて行ける範囲にあると認識しているが、わずかであるが、半径1kmから離れた地域があり、小学校の低学年では子どもたちだけでは危ないので行かせられない。そのため、その地域での図書の受け取りや、返却窓口設置の希望を求めるものがあった。回答としては、現在新しく図書館を

設置するのは不可能であり、中央図書館、地区図書館あわせて全13館あるので、そちらをご利用いただきたいこと、今後は他の方法も検討していくことをお伝えした。以上の二つの観点から、今回の議題を皆様に検討していただきたい。そこで、現在コンビニエンスストアでのサービスを実践している5自治体へアンケート調査をした。一覧表は一部をとりまとめたものである。一番活発に取り組んでいるのは所沢市立図書館である。所沢市立図書館は8館の分館、地域開放型学校図書館1館が利用できる。さらにファミリーマート8店舗と契約し、貸出、返却、予約受付サービスを展開している。週5日配送を行っていて、24時間貸出、返却が可能である。その下の横須賀、串間、高松市立図書館は貸出と返却、秦野市立図書館はブックポストを設置し、返却のみとなっている。その他の各自治体の運営の違いとしては、配送便を業者に委託するか図書館職員が担当するかでわかれている。また、高松市立図書館は、4店舗あるが、コンビニエンスストアでなく、クリーニング店など一般店舗も利用している。どの図書館も一回は図書館で登録をしていただくことが前提となっている。契約金額もさまざまである。府中でも実施するとすると、予算を考える必要がある。各店舗ごとにいくらという形の契約で行っている所がほとんどである。串間市立図書館では社会貢献のひとつとして、無償の契約で行っている。調べきれていない部分もあるが、ほとんどの自治体がファミリーマートと契約している。府中市でもファミリーマートに広報を置いていただいている。まだコンビニエンスストア等との打合わせをしていない段階なので、どうなるかわからない。ただ、ファミリーマートのない地域もある。すぐにこのサービスに取り組むというわけではなく、じっくり考えるために皆さんから色々な意見をいただきたい。

- 栗田委員 資料について説明していただいたが、何か質問はあるか。
- 小島委員 費用の問題がわかるといい。所沢などでは、利用者から費用をいただくのか。
- 事務局 お客様の費用負担はない。大体1年契約である。始めるにあたって、必要な消耗品がある。その他の費用として、所沢については、基本料金は1店舗あたり税込で1ヵ月10,800円、加算はひと月に300袋こえると1袋あたり税込22円となっている。25年度の決算は8店舗で年180万で、加算部分だけで80万円を超えている。横須賀については1式48万で、1店舗の展開となっている。秦野は図書配送委託代が1回あたり9500円で週3回の運送費用とポストの設置費用がかかっている。秦野は返却ポストのみの設置となっている。串間は無償の契約な

ので、コンテナや記入用紙などの消耗品の初期費用のみとなる。高松は、4店舗で年間60万円かかっているが、相手先がばらばらで、個別の契約になっている。それぞれ6万～18万とかかる費用には差がある。それ以外にボールペンや紙、入れておく箱などの初期費用がかかる。また、消耗品は買い替えの費用がかかる。

栗田委員 基本的には利用者に負担をかけずに、図書館の方で負担するということである。

事務局 コンビニエンスストア活用というだけでなく配送について、府中に関してはPFIの配送事業者が地区館を巡回している。途中で立ち寄る箇所が増えると費用がプラスになる。駐車スペースの問題で、費用が発生することもある。

栗田委員 業務委託料として発生する費用と図書館側が負担する配送と消耗品の費用の二つの部分がある。図書館の業務を受けてくれるかどうかをまず聞かなければならない。他市での事例を聞くと、相場があるわけではなさそうである。

事務局 店舗あたりや一式の費用など、自治体によって様々で、入札ではなく個別に契約している。事前に話をした上でやっている。

高橋委員 この表の中で貸出・返却・リクエスト受付を行うところ、返却のみのところなど費用が異なる。府中市としては、どの部分を委託するつもりか。どこに重きをおくのか。

事務局 予約受付はインターネットでも受け付けられるので、そちらを発展させて、貸出返却をメインに考えている。

高橋委員 返却だけだと安あがりかと思う。とりあえず返却だけでやってみるという考えはあるか。それとも最初から貸出返却と考えているのか。

事務局 長い間駅前に返却ポストをとという要望があるので、まずは返却はやりたい。せっかくやるのであれば貸出もという希望もできると思われるので、最初から貸出返却と考えている。

高橋委員 前回の会議でもでたが、本が早く返却されないことで、新しい本を買わなければならない、費用が発生する。返却が早まれば貸出のスピーディー化につながる。図書を駅前に返却、コンビニエンスストアに返却できれば返却が早くなる。このサービスを行うことで返却が早まったという実績はあるか。

事務局 そういった実績は聞いていない。所沢の場合、図書館が複数あり、かなりの部分カバーしていると思われるが、それでもこのサービスを行っているのは利用者の利便性を考えてのことだと思われる。開館時間やそれぞれの図書館とコンビニエンスストアの位置というのも関係する。返却

だけなら府中市の場合、地区図書館のブックポストは24時間利用できる。

大石委員 子育て中、本を借りる時、白糸台図書館を利用していたが、駅と反対側にある。出かけるときに駅で返却できれば、かなり便利になる。帰宅してから、近くてもなかなか夜図書館に返却に行こうと思わない。駅前に返却ポストがあると、出勤する家族にも頼みやすい。

高橋委員 電車を出かけていて、読み終わった本を帰りに返すという人もいるので、駅に返却ポストがあると便利である。

事務局 駅構内の場合、鉄道会社との交渉も必要となり、難しい。

渡辺委員 1ヶ月どのくらい利用があるか、延べ利用件数はどこかにでているか。

事務局 所沢は年間39万袋、貸出しした状態で袋に入れてコンビニエンスストアに送る。

小島委員 袋の中に1冊かもしれないし、複数冊かもしれないが借りたい本が入っているということか。

渡辺委員 それは多いと置いていいのか。

事務局 個人的には多いと思う。図書館以外でこの利用数だと多い。小さな分館だったら1館分の利用と同じくらい。

渡辺委員 それだけ要望があるということだ。

大石委員 府中市では配送料はいくらぐらいかかっているのか。

事務局 個別で配送料というのはなく、PFI事業の中でやっている。

大石委員 明細はないのか。

事務局 ない。PFIの費用のうち、図書資料購入費は決まっているが、その他は要求水準を満たしていれば、PFIの費用内で行う。

大石委員 どのくらい配送料がかかるか見積もりをとる必要はある。

事務局 現在の配送分にコンビニエンスストアに立ち寄る分をプラスすることになる。

大石委員 今委託している業者に、この条件に変えた場合、どのくらいの増額が発生するかを試算することはできるか。

事務局 店舗数にもよる。現在は配送の時間が決まっていて、地区館を巡回し3時までに戻る契約になっている。まわる箇所が増えて、時間までに戻ってこられない場合、相手方にすれば契約違反になるのではないということになる。

大石委員 新たに契約する時に、例えば1ヶ所増えて3時半になった場合、どのくらいできそうかという見積もりがとれるか。どのくらい料金が増えるか知っておくことは今後を考えていくうえで必要かと思う。

事務局 所沢のように8か所となれば、別業者という選定もある。

- 大石委員 別業者ならどのくらいかかるか、今の業者との比較も含めてやるやらないの判断をする場合には、この業者だとどのくらいかかるか試算するべきである。利用者負担はとらないということだが、1件100円程度とって、収支がすっきりするようであれば、市の負担は少なくなる。費用が足かせになるようなら、利用者負担をとっていくのはどうか。
- 栗田委員 前提として現在の予算の範囲内でやるか、新たに予算を要求してやるかによって話は変わってくる。予算の増額は難しいと思うが、これはサービスが大幅に向上する重要な事業だということで市に予算要求して通れば、今のサービスにプラスしてできるので、他のサービスを削らなくても済む可能性がある。それができない場合は、現在の予算の中でいかにやりくりするかという話になるので、費用を切り詰めなくてはいけない。見通しとして、市の方に予算要求するという可能性はあるのか。
- 事務局 重要なサービスだと思う。現在、来年度の予算を組んでいるところで、昨年度から5%減となっている。新規事業をすとなると政策会議に出して調整する必要がある。その前に部の中で予算を割り振る優先順位もある。利便性の向上にはなるが、お客様の安全性に関わる事業が優先されるので、こちらの優先順位は下がるということもある。
- 渡辺委員 全国で5例程度で先進的な取り組みである。どこもお金をとっていないということは利用者負担は求めないものなのか。
- 事務局 図書館は公共のサービスなので原則無料となる。一部利用する方に費用負担をしてもらうという考え方もある、と改めて感じた。
- 野見山委員 最初に要望としてだされたと思ったが、議会でできたのか。
- 事務局 数年前に、所沢の例をだされて、府中でも検討できないかという提案があった。市民からのコンビニエンスストア利用の要望はでていない。市長への手紙では、コンビニエンスストアの利用が大前提ではなく、学校や学校図書館などが窓口となるイメージだったととらえている。
- 野見山委員 サービス向上には費用の増加が必要である。限られた予算の中でコンビニエンスストアでの貸出返却サービスを付け加えるのが本当に市民にとっていいのか。半径1キロ以内に図書館がない地域の人、市民として行政サービスを受けていないということである。そういうところを優先的に行うということであれば、府中市民全体の合意もとりやすい。人間の利便性の向上の追求には限りがなく、どこかでリミットをかける必要がある。同じ数百万のコストをかけるなら、個人的には、蔵書数の増加にかけたほうがいい。最低限の費用で駅等に返却ポストを置くのはいいのではないか。貸出までやると手間とコストがかかる。料金徴収をやるともっとコストがかかる。

- 栗田委員 確かに料金徴収を行うとなると手間やコストがかかる。相当高い金額に設定しないと回収できない。サービスを受ける側は無料の方が気楽に利用できる。公共料金などの授受は手数料をとっている。ファミリーマートが地域貢献に力を入れているのであれば無償の可能性もある。この事業が費用対効果でプラスになっているかどうかを考えなければならない。これが図書館にとって予算に見合ったサービスなのか、図書館の生命線の蔵書を削ってまで追加すべきものなのか。これまでのサービスにお金がかかりすぎていたのではないかという事にもなりかねない。貸出業務がこのサービスを導入することによって軽減されるのであれば、その部分の予算を減らして、コンビニエンスストアでのサービスを導入すればいい。コンビニエンスストアの場合、夜間も貸出可能になる。これは色々な観点から考えなければならない。この事例の中で高松市立図書館はちょっと違って、時間的メリットがあるとは思えない。24時間の貸出返却ができることと、地域的な配置とは別の次元で考えなければならない。コンビニエンスストアでのサービスによって利便性が高まる時間の問題については、以前から、特に地区館での開館時間延長の要望があった。その要望を満たすという点を考えると、地区館とコンビニエンスストアはかさなっても構わない。まずは時間の問題について議論していただきたい。要望としてこれまでも出されており、これまで十分なサービスが行われていない部分である。
- 茅原委員 図書館の中でできるサービスを考えてはどうか。コンビニエンスストア利用の費用があるなら、人件費に回すことも考えてはどうか。意見を出している人がどのエリアの人かわからないが、半径1キロでない部分は試験的にやってみる。府中市は地区館が拠点としてあり、ほとんど毎日地区館も開館している。あくまで地区館を拠点として考えていけないか。
- 事務局 具体的にいうと九小近辺が半径1キロにはいない地域である。中央、武蔵台、新町図書館が遠いが行ける。しかし、低学年の子どもが行くとなると行けない。ただコンビニエンスストアがその地域にはない。
- 大石委員 ファミリーレストランは利用できないか。遅くまで開いている。
- 高橋委員 一部四谷のあたりで移動図書館をやっていると聞いた事がある。
- 事務局 今移動図書館はやっていない。排ガス規制で移動車を廃止した。
- 高橋委員 子育ての時には移動図書館は便利だった。
- 事務局 地区館が設置され、近隣の自治体の図書館も相互利用できる。
- 高橋委員 予約の多い新刊本はかなり待つ。図書館に行って帰りに予約本が準備できたというメールが届いていることもある。どこにも不便な地域

だと残念に思う。新刊を追加で買うのと 返却ポストを置くのでは、どちらが良いのか。コンビニエンスストアではなく、北庁舎や市政情報センターに返却ポストを置くだけなら、それほど費用はかからないのではないか。図書館が近くになくて、困っているところで試験的に行ってはどうか。役に立っているとわかってから取組んでもいいのではないかかと思う。予算が減らされている状況でこのサービスをやるのは難しい。今できることをやって、新しい本を買う方がいいと思う。今活字離れで、本を買うのは控えるが図書館は利用するという人は多いと思う。返却が早まれば、待ちを解消するのにいいと思う。

栗田委員 このサービスを導入するために他の業務を削ることができるなら話は変わってくる。本体の一番大事なところは削れないので、どの部分を回せるか、見通しはあるか。

事務局 図書館のサービスを考えると、地区館の時間を延ばしてほしいという意見は、議会や利用者からもきている。本来の時間より1～2時間延ばすことは考える必要がある。地区館の時間延長とコンビニエンスストアの利用の両方を考えると費用面では難しい。どちらかになると思う。

大石委員 全体のことは見えないが、図書館の業務の中で削れるものがあるならば、試行という形でやってみてもいい。やってみて市民からの意見をもらおう。市内の仲間に図書館についてインタビューをしてみた。地区館の時間延長をしてほしい、祝日が全部休みは困るといった意見があった。例えば、フレックス体制にして、9時～17時と10時～18時の日をつくる、どこかの平日を休みにして、祝日を開館する。人件費は増やさずに、全ての人にサービスがいきわたるようなシステムがとれるのではないか、という意見がでた。

栗田委員 コンビニエンスストアを利用したサービスは貸出と返却のみなので、本を事前に決めておかなければならない。それが決まっている人には便利なサービスだが、そのまま開館時間の延長の代替になるわけではない。開館している形で図書館が果たす役割はそれ以上のものがある。費用の捻出は可能か。

事務局 取りやめる事業があるとしたら、講演会や講座になる。講師謝礼分で2～3万円程度となる。それ以外では、地区館の職員費用を削ることになるが、その場合開館時間が短くなり、本来のサービスができなくなり、本末転倒となる。今現在、一番大きいのはPFI事業で、これは決まった額となっている。次に地区館の臨時職員費用。そして市でもっている講座費用や消耗品費となる。ただ一度削ってしまうと新たに始めるという事は難しくなるので削れる費用はほとんどないと思われる。利便性の向

上ということで、再来年度に向けて予算をあげて採用されるかどうかである。

栗田委員 この協議会自体が市議会等にプッシュする役割がある。どのように予算を要求するのか。費用対効果が見込めるかどうかが見通せない。所沢は最初から8店舗で展開したのか。府中でやる場合には、テストケースとしてやってみるしかないだろう。費用をどのように捻出したのか聞けるか。

茅原委員 何年くらい前からやっているのか。

事務局 今回はそれに関しては聞いていないので、今後聞いてみる。

茅原委員 図書館のサービスでなくてもコンビニエンスストアを利用しようという動きは全国的におきてるがそれに近い発想があったのだろうか。

事務局 所沢が8店舗でやっているということは、市民の方の要望があったのかと思うので、聞いてみたい。

渡辺委員 女性センターは固有の蔵書があるが、独自で貸出している。図書館とオンラインになればいい。女性センターは比較的余裕があるようにみえる。近くに地区図書館があるが。

事務局 住吉図書館が近くにある。

渡辺委員 人員を増員しなくてもできるところがあるのではないか。

事務局 駅前にブックポストをという要望もあり、府中駅前というのが言われているが、今駅前再開発をやっているので、その中にブックポストを入れられないかということは考えている。

渡辺委員 体制はそのまま始められるかもしれないケースとなるのか。このような現行施設を利用してはどうか。

高橋委員 女性センターは住吉図書館に行くよりは近い。

渡辺委員 女性センターは良い本もたくさんあり、オンラインになってなくても構わない。

事務局 縦割り行政でできていないところだ。返却だけに特化して、ポストを置くという考えもある。

渡辺委員 女性センターは別に利用カードを作らなければならない。図書館と共通だといいい。

事務局 住吉図書館は駅に近いということもあり、地区館では白糸台図書館について、住吉図書館、学習センター図書館が同じくらいの貸出冊数の多い館となっている。学習センター図書館は祝日開館、平日は午後7時までの開館、さらに指定管理になり利用者数が増えている。駅に近い白糸台、住吉、片町図書館が貸出冊数が多くなっている。

小島委員 全体を聞いていると、返しやすいくことに強い要望があると感じる。地区館の開館時間を短くするのは本末転倒ということなので、新たな事業と

してコンビニエンスストアでの貸出返却サービスをプッシュして出していくといい。

- 栗田委員 他市がコンビニエンスストアでのサービスをやっているなら心強い。
- 渡辺委員 全国で5市だが、強い要望があって実現したのかもしれない。理想が高かったのではないか。
- 大石委員 図書館は重要だから図書館で市の予算をとってきてほしい。
- 渡辺委員 この協議会では、要望する側で予算のことは考えなくていいということか。
- 事務局 今回はサービスの向上をはかるために、ざっくばらんに意見をいただく場となっている。
- 大石委員 この要望が市議会でやってほしいというのであれば、予算を考えてもらいたい。図書館側もこのサービスが良いので取り組んでいきたいというのであれば、ある程度リサーチして具体化することが必要。このくらいの費用があれば、図書館が近くになくて不便な地域にテストケースとしてコンビニエンスストアのサービスができるという要望をだしていける。これだけ前向きな意見がでているので、方向性を実現することを検討していくのが市の活性化につながる。話にはしたがお金がなくてできないでは市民の市政に対する関心もさがる。他の市の事業と比べても市民の方の図書館への期待は予想以上に強い。図書館の存在は生活に根差していて重要なので、予算をとってほしいというのが周りの市民の多くが思っている。
- 渡辺委員 市議の方の要望は思いつきではないのか。
- 事務局 各党派からの要望で、他市でできたので検討してはどうかという事である。
- 小島委員 議員だけでなく駅前に返却ポストをとというのは市民の要望である。
- 大石委員 コンビニエンスストアにとらわれずにサービスを検討するのはどうか。
- 栗田委員 例えば、アンケートをとって、一般の方の意見を求めて、より広くから出された要望にしていくというやり方がある。どういうサービスがあったらいいかを聞き、コンビニエンスストアで返却できたらいいか、あるいは貸出もできたほうがいいのかなどを聞く。コンビニエンスストアでのサービスへの要望が多かったら、予算を要求する。要求が通らない場合は、予算をとらずにやるべきかどうかを議論する。基本的には本体に手をつけずに、予算を付けてからやる方向でまずは考えていただきたい。次に、予算がつかなかった時はどうするか、何かとトレードオフしなければいけない時には、慎重な議論が必要だろう。ただそのためには、先程から話題になっているが、積算が必要。先行事例があることをふまえて

た上で、コンビニエンスストアが受けてくれるかの、事前の打ち合わせも必要である。それが難しいようなら、別の所に返却ポストだけを設置する。このサービスが比較的安いコストでやっていけるのであれば、当然それでいいということになる。そこまで進める予定はあるか。

事務局 皆様にご意見をいただいて終わりではなく、再来年度に向けて動いていきたい。今回他の自治体に聞いたことの他に皆様からこの点はどうかと言われたことも聞いておきたい。ファミリーマートだけでなく、他のコンビニエンスストアのリサーチもしていく。いただいた意見を具体的に検討したい。今ある施設を活用する案や図書館自体のサービスを向上させて、そちらがあがればこのサービスは後回しになる可能性もある。いただいた意見を反映させていきたい。

栗田委員 結論としては、予算がつけば当然やった方がいいサービスなので、このサービスの導入に向けて準備を始めていただく。今回出た様々な質問等がうまく活かせるように進めていただく。もし、予算が付くのであれば、このサービスの事例を大々的に宣伝してもいいような先端的な取組みだと思う。どこかで紹介されたということはないのか。

事務局 それぞれの市のHPで紹介されている。

高橋委員 この資料を見た時にやっている所があるということを知ったが、5か所しかやっていないのかとも思った。府中市がやる場合には、利用者へのアンケートをとって、貸出返却か返却のみかや地区図書館の時間延長等色々な項目をもりこむと色々なことがわかると思う。

栗田委員 利用者アンケートは次にいつ頃とる予定か。

事務局 次は11月に行う予定だが、ルミエールの全体的なアンケートであり、基本的な質問は同じもので、追加で少し盛り込める程度である。独自にするか、または、来年度世論調査があり、図書館を利用されていない市民にも意見をきくことができるので、そちらも利用できる。

栗田委員 前期の協議会でアンケートについて話に出たのは、利用者アンケートは図書館を熱心に利用している人達が回答しているので、意識が高い人達の意見ばかりになってしまう。全く関心のない人がどう考えているかわからないので、幅広くアンケートをしていただくのがいい。このサービスによって、新しいニーズが発掘されるかもしれない。レンタルショップ並みのサービスと受け取ってもらえるかもしれない。このサービスを導入することで、コンビニエンスストアの顧客増につながることも考えられる。事務局で事前調査を進め、さらに必要なデータを集めてもらうことにしたい。

大石委員 民間との連携も時代の流れだと思うが、市の他の施設との連携も考えて

ほしい。コンビニエンスストアへの打診と同時に地域体育館等に同様の声かけをしてほしい。市民は同じ市の施設という見方をしている。例えば、朝日体育館は常駐する人がいなくて施錠されている。目の前に市の施設があるが、使われていない別の機能を持たせることで活性化し、利用が増えるのではないか。大き視点で見ると市の負担が減っていくのではないか。

事務局 物流の問題がある。時間のタイムラグもでてくる。別の施設で返却したあと、図書館に来られても返却処理ができてない場合がある。駅に設置できないのは、無人になると安全性に不安があるからである。

野見山委員 府中駅だと市政情報センターはどうか。

事務局 再開発ビルに移る予定になっているので、そちらで検討しようと考えている

高橋委員 北庁舎、市政情報センターが利用できるといいと思う。返却だけでもできるといい。

栗田委員 可能性はあるか。

事務局 市政情報センターは配送車の駐車スペースがない。再開発ビルに移れば駐車スペースもあるので、窓口サービスができる可能性がある。

高橋委員 北庁舎はどうか。駐車スペースがある。市政情報センターは7時半まで開いていていいと思うが、北庁舎は5時までなので早く閉まってしまう。

事務局 ついでの方は便利だと思う。北庁舎の方が人がいないかもしれない。駐車場の機能が使いにくい。以前、宮町図書館が工事中の時、返却ポストを西玄関に置いたことがある。

高橋委員 返却がうまくいけば待ち人数が減り順番が早くまわる。再開発ビルができると便利になるのか。

小島委員 再開発ビルにブックポストがおけるのか。駅からの直結になっているのか。

事務局 連絡通路はできると思うが、まだ詳細は決まっていない。駅前にあるといった感覚が便利だと感じるのではないか。

栗田委員 配送の問題をクリアする必要があるので、現時点では考えにくいということである。

大石委員 例えば、地域の人間で地区館まで持っていくのはどうか。コンビニに本が返る。それを白糸台図書館に運ぶ。責任問題もあるので、無料ではなく少し有料にする。少しの間の時間を利用して引き受けてくれる人はいらと思う。業者を使うことだけでなく、市民の力を使って別の形で実現できるのではないかと思う。

渡辺委員 休みが重なれば量が多くなる。

- 大石委員 調整は難しいと思うが、やっていくうちに見えてくるのではないか。必要などころに必要な配分をしていく。
- 栗田委員 所沢市が39万袋とあるが、どの程度のものか。1袋はどれくらいか。業者に委託でやらなければならない規模なのかどうか知りたい。最初ボランティアで行うことができて、そのうちできない量になるかもしれない。実績をもう少し調べていただきたい。
- 大石委員 府中駅から運ぶのは大変だと思うが、刑務所近辺の方たちにテストパターンで小さい規模で行うのにボランティアを利用することもできるのではないか。
- 栗田委員 串間の週1回の回収なら可能かと思うが、府中は所沢の方が参照しやすい。
- 高橋委員 図書館を利用する方は本を見て今日借りたい本がなくても、別の本を借りようという利用をする。このサービスは借りる本が決まっている人にはいいが、返却だけでもサービス向上になるのではないか。希望的観測はいいが、税金をどういう風に使うかということになる。
- 栗田委員 この協議会では費用の問題とは関係なく議論していい。
- 事務局 予算がなければ、色々なアイデアをだしていただける。
- 高橋委員 地域ボランティアはいいアイデアだと思う。宅配ボランティアの業務にこういった業務も多少入れていただいてもいいのではないか。
- 渡辺委員 小さい規模から始めていただくといい。ボランティアを希望される方もいるのではないか。
- 事務局 宅配ボランティアでも申込みはいただいたが、地域的なことが折り合わず、登録しているだけになっている場合もある。
- 栗田委員 先程積算していただきたいと言ったが、予算が付かなかったら、どうやって安くやるかを考えなければならない。まずは図書館でどのくらい必要となるかを計算していただく。他に確認したいこと、意見などなければ、今回の意見を参考に図書館の方で進めていっていただきたい。本日の議題の検討はこれで終了する。
- 事務局 次回の会議は2月を予定している。後日、何日か候補日をあげて日程調整をお願いします。